

会員の皆様 神戸大学卒業生の皆様

「東京六甲クラブ便り 1月号」をお届けします。クラブの詳細は以下をご覧ください。

<https://www.rokko-club.jp/>

★クラブ移転のご案内

かねてよりご案内の通り、帝劇ビル建替えに伴い、「有楽町電気ビル」に移転します。帝劇ビル利用を1月末で終了し、2月を休業、3月3日(月)より有楽町電気ビルで再開します。皆様を新しい場所でお待ちして居ます。詳細、地図などは以下をご覧ください。

https://www.rokko-club.jp/PDF/2501_clubiten.pdf

(1)1月のことば

明けましておめでとう御座います。1年前の正月とは違い今年には地震や航空機事故もなく静かな三が日でした。(もっともその後南九州でかなり大きな地震があり、ロスアンジェルス大火災もありましたが。)今年には昭和100年にあたる年だそうです。平成、令和が合わせて36年であることを考えると、昭和が64年も続いたことはちょっとした驚きです。その昭和も戦前の20年、戦後の44年に分ければ二つの全く違った時代でした。高齢者はそのように振り返りますが、若い世代にとっては平成、令和こそ自分たちにとっての歴史だと思うことでしょうか。年寄りの冷や水と言われるかもしれませんが、若い人達も昭和という時代について時々考えをめぐらしてもらいたいと思います。(HS)

(2)クラブからのご案内

①1月26日(日)13時、新年会&「ありがとう帝劇ビル」

帝劇ビル建替えの為、クラブ利用は1月末迄とし、2月は移転作業の為休業、3月より有楽町電気ビルにて新しいスタートを切ります。60年を過ごした帝劇ビルを皆様と一緒に最後に楽しみたく、是非奮ってのご参加をお待ちして居ます。従来 of 新年互礼会とは異なり、服装は自由とさせていただきます。

https://www.rokko-club.jp/event/index_2025.html#2025.01.26

②1月28日(火)14時、映画会「心の日月」

菊池寛原作の日本映画「心の日月」です。時は昭和20年代の後半でしょうか。岡山在住の皆川麗子は、親が取り決めた資産家・氏家との縁談を嫌って実家を飛び出し、東京に向かいました。青春時代の、爽やかな純愛映画です。大戦の惨禍がまだ色濃く残るときですから、家並はみすぼらしく、人々の服装も野暮ったい限りですが、その貧しさの中に咲く可憐な一輪の花が若尾文子です。

https://www.rokko-club.jp/event/index_2025.html#2025.01.28

③2月2日(日)~8日(土)KUCアート展

第16回アート展を昨年に引き続き東京交通会館にて開催します。会員がそれぞれに力作を持ち寄りました、お時間がございましたら是非お立ち寄りください。

https://www.rokko-club.jp/event/index_2025.html#2025.02.02

(3)会員からのお知らせ

①21世紀若手の会「ワインの謎を紐解く」(2024.11.22)

ワインの知識を深めるだけでなく、参加者同士の交流や新たな発見があり、ワインを通じて心豊かな時間を共有する場となりました。講師・松浦氏の豊富な知識と熱意に触れ、ワインの世界が一層身近に感じられる素晴らしいひとときとなりました。

<https://www.rokko-club.jp/oshirase/index.html#2024.11.22>

②「忘年会&クリスマスパーティ」(2024.12.20)

帝劇ビルで最後となる忘年会&クリスマスパーティ、来年3月には有楽町電気ビルに移転するので、最後を楽しもうと52名が集まりました。「Bel monte 六甲」のミニコンサート、東京オフィス・阿紀ディレクターからは現役学生による拳法部復活の活動報告、恒例の「じゃんけんゲーム」では決勝で東京六甲男声合唱団とBel monte 六甲の対決、勝利したのは、、、

<https://www.rokko-club.jp/oshirase/index.html#2024.12.20>

最後までお読み頂き有難う御座います。

皆様のご感想、ご意見などを頂きたく、メール返信にてご連絡頂ければ有難く思います。

東京六甲クラブ 業務企画推進委員会